

福岡市 都市景観賞 受賞作品



The 24th
FUKUOKA Urban Beautification Award 2010

福岡市都市景観審査委員会委員

(50音順 敬称略)

池田 美奈子	九州大学准教授
小野 和美	電通九州コミュニケーション・プランニング1部 部長
包清 博之	九州大学教授
坂井 猛	九州大学教授
佐藤 優	九州大学教授
森岡 侑士	NPOデザイン都市・プロジェクト理事長
山形 紀子	西日本新聞社西日本会次長
山下 三平	九州産業大学教授
今岡 和也	福岡市住宅都市局理事

まちなみ写真選考委員会委員

(50音順 敬称略)

池田 美奈子	九州大学准教授
井上 一	ブルックスタジオ代表
佐々木喜美代	福岡市広報課長
佐藤 優	九州大学教授
藤本 健八	フォト・ワークス代表

今年は、長びく不況が響き、大型建造物が少なかった。景観賞の受賞数が心配されたが、杞憂だった。いつもの景観賞であれば大ききや新しさのみ目が奪われるが、

今年は理念を深く考え、多様な対象が選ばれた。その代表は「松原校」である。道路工事によって切られようとしていた桜を、市民と市長との句のやりとりによって伐採を回避した。都市高速沿いにスペースが確保され、都市の変貌を見守っている。

「福岡城南丸多間櫓」と「スターバックスコーヒー福岡大濠公園店」は、審査委員の一致した支持を得た。多間櫓は、城郭の南西側の木立の中にひっそりとたたずみ、江戸時代の原形を偲ばせる。スターバックスは、市民に親しまれている大濠公園の景観に配慮した設計で、全国のモデルになる。

「油山片江展望台からの風景」は、昨年のフェリーからの風景に続く視点場の受賞である。展望台ではちょうど渡り鳥のウオッチングをしていた。「モミジアパルトメント」は、小型集合住宅の完成度を追求した意欲作である。「川端せんざい広場」は上川端商店街から川に抜ける「コミュニティ広場」であり、博多の風情を伝える。「紺屋2023 project」は、古い店舗付き集合住宅を時限付きで若いアーティストなどが集う活動スペースにしている。「福岡パルク」は、旧ビルの改修にもかかわらずパルクのアイデンティティを一貫させ、空洞

があった天神の中心部に息を吹き帰らせた。今回唯一の大型建造物である。

写真は昨年からの募集をはじめて2年目になる。今年も多様な作品が寄せられた。小山田さん「進水式の見える場所」は、ダイナミックなトリミングが印象的。河手さん「お櫓田さんに一参り」は、博多ならではの瞬間の情景を切り取った。市橋さん「玄界島の見える丘」は、花を育てる努力もそれを心地よく描写した力も見事。俵さん「空へ」は、さわやかな一面の青が個性的である。

特別表彰は、博多大丸のポトルキャップヘアと、堤ECOピアンス会の油山観光道路の街路花壇の維持管理活動に決まった。ポトルキャップヘアは、エコ活動を都会的なランドマークにしたセンスが光り、クリスマスシーズンのライトアップは市民に親しまれている。堤ECOピアンス会の活動は、都市のラインを印象つける価値のある活動である。

なお、今年は、福岡市都市景観賞をモデルにした景観の国際賞である「アジア都市景観賞」が発足し、第1回授賞式が福岡市で盛大に開催された。これも24年間の関係者や受賞者、市民の皆様の誠実な努力の成果である。

審査委員長 佐藤 優

一般表彰 ● General Commendation Review

国指定重要文化財 福岡城南丸多間櫓

中央区城内1丁目1
用途：国指定重要文化財
完成年月：(推定)1607年までに当初竣工、1853~54年(嘉永6~7年)に建て替えられ、さらに昭和47~49年に解体修復工事され、北隅櫓が新たに再建された。
所有者：福岡市(教育委員会)



石垣の高みに沿って、白壁と腰板が水平に展開する特徴的な一層櫓が、遺構の少ない福岡城にあって、ひと際端正なたずまいを見せる。かつての防御という、人を寄せ付けないための機能とは裏腹に、今は取り囲む緑と呼应して、静謐な空間に人々を迎える。城周辺の多くの公共空間では、日常的な市民の生活や活動があり、都心の躍動と変貌を重ねる福岡市の都市景観へと連なる。この多間櫓は、福岡市の歴史や文化や、それらの深みと多層性を、まるで対比的に映し出す鏡のようなものであろうか。



スターバックスコーヒー 福岡大濠公園店

中央区大濠公園1-8
用途：飲食店 完成年月：平成22年4月
所有者：スターバックスコーヒージャパン株式会社
設計者：スターバックスコーヒージャパン株式会社
施工者：株式会社松本組



市民の憩いの場であり福岡の顔のひとつとなっている県営大濠公園に建つ平屋の小規模店舗建築であり、環境に最大限の配慮を払っている点が、これからの店舗建築の方向性を占うものとして評価できる。

公園の既存樹木を保存するとともに、公園の雰囲気、自然、スケール感に対して、横長に広がる建築をシンプルに主張しすぎることのないようまとめている。また、公園側の開口部を広くとって視線の行き来に配慮し、パuffersエリアに設けたテラス席が散歩やランニングの休憩スペースとして機能している。さらに、室内外に地場材を使用し、省エネ、資源の循環にも配慮している点も評価のポイントとなった。

